

平成 27 年 6 月の解説（週間天気予報）

【6 月の天候状況】

上旬は、梅雨前線が西日本の南岸から東日本の南海上に停滞することが多く、活動が活発でした。このため、西日本では曇りや雨の日が多く、降水量もかなり多くなりました。特に前線に近かった九州南部では、旬降水量が平年比 316% となり、6 月上旬としては統計を開始した 1961 年以降最も多い値となりました。北・東日本では、周期的に通過した気圧の谷の影響により天気は数日の周期で変化し、太平洋側では大雨となったところがありました。2 日から 3 日は、前線が東・西日本の南岸に北上して活動が活発になったため、東日本以西で雨となり、九州南部を中心に大雨となりました。その後は、前線に近い九州南部を中心に雨が続き、九州南部、九州北部では 2 日頃、四国、中国、近畿では 3 日頃、東海、関東甲信では 8 日頃に梅雨入りしました（速報値）。

中旬は、梅雨前線が西日本の南岸から東日本の南海上に停滞することが多く、東日本太平洋側と西日本では曇りや雨の日が多くなりました。特に、九州南部では、上旬に引き続き降水量がかなり多くなりました。一方、北日本と東日本日本海側では天気は数日の周期で変化しました。旬の終わりに梅雨前線が東日本の太平洋岸まで北上し、北陸でも天気が崩れ、北陸では 19 日頃に梅雨入りしました（速報値）。また、沖縄・奄美では、勢力の強い太平洋高気圧に覆われて晴れて高温の状態が続き、沖縄地方では 11 日頃に梅雨明けしました（速報値）。

下旬は、旬のはじめに梅雨前線が沖縄付近から本州の南海上に南下する一方、本州上空に寒気が流れ込みました。このため、全国的に曇りや雨のところが多く、局地的に雷を伴った激しい雨となりました。旬の中頃は、梅雨前線が北上し、西日本の南岸から東日本の南海上に停滞しました。また、26 日から 28 日は低気圧が日本海をゆっくり東進しました。このため、東・西日本を中心に曇りや雨となり、西日本と奄美地方を中心に大雨となりました。東北でも太平洋側を中心に大雨となったところがあり、東北南部では 26 日頃、東北北部では 27 日頃梅雨入りしました（速報値）。

月平均気温は、沖縄・奄美でかなり高くなりました。また、月降水量は、北日本、西日本太平洋側で多くなりました。月間日照時間は、西日本太平洋側でかなり少なくなった一方、沖縄・奄美ではかなり多くなりました。

【6 月の検証結果】

「降水の有無」の適中率（3～7 日目の平均）は、全国平均では例年値（注）より 4 ポイント高い 68% でした。各地方の適中率は、全ての地方で例年値以上となり、特に九州南部地方と沖縄地方で 11～13 ポイント高くなりました。

最高気温（2～7 日目の平均）の予報誤差は、全国平均では例年値と同じ 2.7 となりました。各地方の予報誤差は、概ね例年値と同程度でした。最低気温（2～7 日目の平均）の予報誤差は、全国平均では例年値より 0.1 小さい 1.7 となりました。各地方の予報誤差は、特に沖縄地方で 0.5 小さくなりました。

（注）例年値は気象庁 H P（予報精度検証）内「月毎の精度の例年値」を参照してください。

【8 月の週間天気予報の利用にあたって】

8 月は年間を通して最も気温が高く、真夏日（日最高気温が 30 以上の日）が最も多く、猛暑日（日最高気温が 35 以上の日）となることもあります。最高気温が概ね 35 以上となることが予想される場合には、高温に関する気象情報が発表され、当日には高温注意情報も発表されます。これらの気象情報と併せ、週間天気予報に記載している向こう一週間の日々の最高気温予報も参照し、熱中症予防など健康管理にご活用ください。